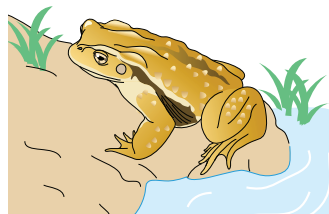


ヒキガエル



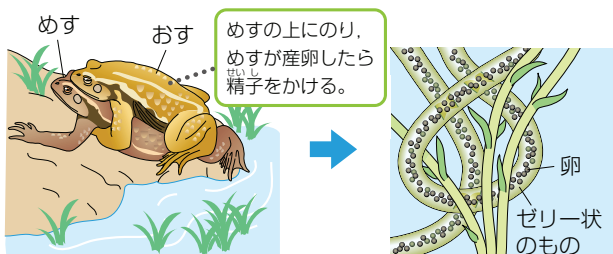
ヒキガエルは、森林の近くなどにすむカエルです。「ガマガエル」ともよばれます。

ヒキガエルの成体（おとなのすがた）は、ほかのカエルと比べるとあまりとびはねず、歩いて移動します。

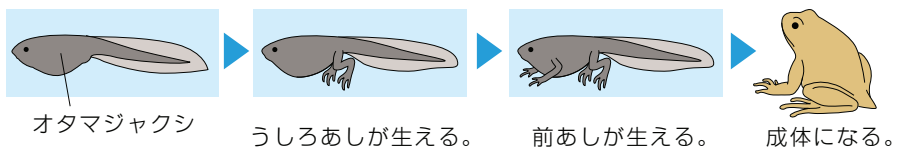
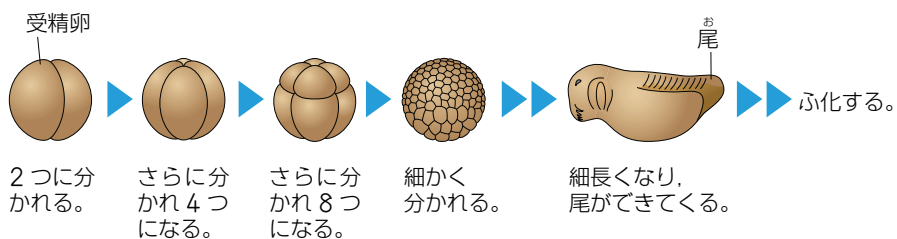


成長のようす

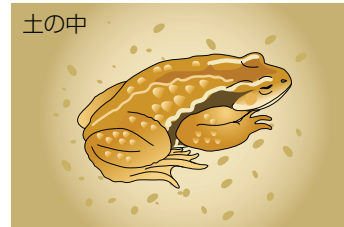
ヒキガエルなどのカエルは(1)です。ヒキガエルは(2)になると自分が生まれた池やぬまで(3)します。卵は(4)のものに包まれ、ひものように(5)います。



受精卵はじょじょに細かく分かれ、からだの形ができていきます。カエルの(6)した幼生（子どものすがた）は(7)とよばれます。オタマジャクシは水の中で生活し、(8)で呼吸します。オタマジャクシは成長し、やがて成体に(9)します。成体は(10)と(11)で呼吸します。



ヒキガエルは、冬になると(12)にもぐって(13)します。



食べ物とすみか

ヒキガエルのオタマジャクシは池やぬまなどの(14)にすみ、水の中の(15)などを食べます。成体は(16)の(17)がある場所にすみ、(18)などを食べます。

からだのつくり

ヒキガエルのオタマジャクシには(19)があります。成体にはえらはなく、(20)があります。昆虫をつかまえるための長くのびる(21)をもちます。また、からだ中のいぼから毒を出して身を守ります。

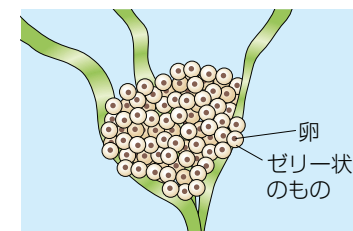
トノサマガエル



トノサマガエルは、田んぼや池などにすむカエルです。成体は(22)やほかの小さな(23)を食べます。



トノサマガエルの(24)も、ほかのカエルのたまごと同じように(24)のものに包まれます。



+プラスα

カエルのおすは、めすが産卵する時期になると大きな声で鳴きます（めすも小さな声で鳴きます）。カエルはおもに夜間に活動するため、鳴くのも夜です。ヒキガエルは「クークークー」、トノサマガエルは「グルグルグル」、ウシガエルは「フオー」という声で鳴きます。

ウシガエル



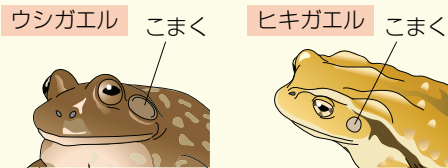
ウシガエルは、池や川の近くにすむカエルです。からだがとても大きく、鳴き声も大きくひびきます。成体は(25)やほかの(26)を食べます。

ウシガエルは食用とするため日本に持ちこまれた(27)です。もともと日本にいた動物を食べてしまうため、問題となっています。



+ プラスワン

カエルにはヒトのような耳はありませんが、目のうしろのあたりにこまくがあり、そこで音を受け取ります。



アフリカツメガエル



アフリカツメガエルは、(28)にすむカエルです。卵がふ化するまでの成長の観察やさまざまな実験によく使われます。



+ プラスワン

アフリカツメガエルのように、生命現象の研究によく用いられる動物や植物は「モデル生物」とよばれます。ほかに、ウニやイネ、マウス（ハツカネズミ）などがモデル生物としてよく実験に用いられます。

イモリ



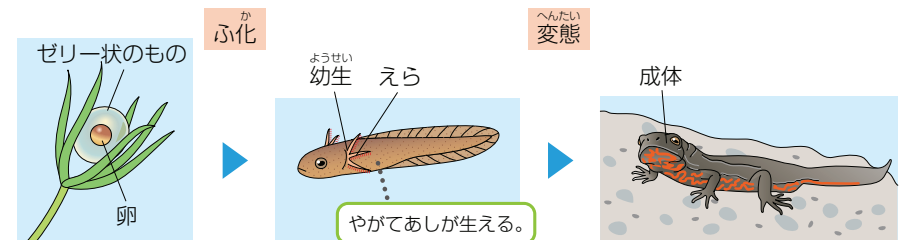
イモリのなかまは、池や川などの(29)にすんでいます。尾などからだの一部が失われても、もう一度生えてくることが知られています。イモリの成体は(30)や(31)を食べます。

イモリは冬になると陸上の(32)や(33)で(34)します。



冬眠のようす

イモリは、おすの出した精子の入ったふくろをめすがらだの中に入れる、(35)を行います。イモリの卵は(36)のものに包まれ、水の中やじめじめした場所に産みつけられます。



サンショウウオ



ほとんどのサンショウウオのなかまは、成体は(37)で生活します（オオサンショウウオは水の中で生活します）。成体はおもに(38)をしています。

サンショウウオは(39)です（種類によっては体内受精を行います）。卵は池や川などの水の中に産みつけられます。

